

東京医科大学における女性研究者支援の取り組み

【はじめに】

東京医科大学では、「医師・医学生支援センター」を平成 22 年に設置し、今年で 4 年目を迎えている。医師が働きやすい環境の整備と、医学生に対し卒前から医師としての職業意識を高める教育をすることにより、勤務の継続と女性医師の育児等ライフイベントからの復職を支援する活動を行っている。しかし、研究支援についてはまだ十分行われていない。今年度は看護学科を開設し、今後女性研究者の割合が更に増加することは明らかであるため、本学の女性研究者支援体制の確立は急務であるといえる。

そこで、既存の「医師・医学生支援センター」を「医師・学生・研究者支援センター」に名称を改め、臨床の医師や医学生だけでなく、基礎医学の場でも欠くことのできない女性研究者を支援する部署として拡充し、積極的な支援に取り組んでいく。

【取り組み状況】

現在、当センターは①就業継続・復職支援、②育児支援、③相談窓口、④学生・研修医支援、⑤調査・広報の 5 つのワーキンググループで構成され、医師の復職支援や就業継続支援を核に議論・検討し、これらの取り組みについて構築したホームページに掲載し、周知を図っている。

勤務形態においては医師としてのキャリアの中断を最小限に食い止めるため「短時間正規雇用（病院助教）」と「医師の離職防止のための育児短時間勤務」の 2 つの制度を設置した。病院助教とは、育児、介護、研究等により常勤が不可能になる医師を継続雇用し正職員としての身分を保障している。

【実施計画】

・柔軟な勤務体制の確立

現行の医師が対象である病院助教（短時間正規雇用制度）を、医師でない基礎系・看護系のライフイベント中である研究者を対象とした同様の制度「研究助教」確立に向けて手続きを進める。

・保育環境の整備

学内保育園の対象を研究者にも広げることや、ファミリーサポート体制や病児保育など学外保育施設の委託にむけて整備を進める。

・相談窓口機能の充実と研究活動補助者の配置

研究を継続するためのサポートとして、研究補助者を雇い、研究時間の確保を図る。この補助者には研究者を目指す大学院生等を積極的に雇う。特に育児や介護などライフイベント期間中にある女性研究者から優先して補助者を配置し、補助者を利用した女性研究者は、復帰後に相談員となり若手の指導にあたる。研究補助者は研究者とのやり取りを通じて女性研究者を今後のロールモデルとして考え、若手のキャリア形成に係る啓発を図る。

・女性研究者の採用人数及び上位職女性研究者を増加させる取り組み

上位職を目指す女性教員枠制度や科研費フォローアップ助成金制度の女性研究者枠の設置準備を進める。

・研究者等を対象とした意識啓発のための活動

ホームページや学内報、メール発信による広報周知、キックオフシンポジウムの開催を予定している。

【連絡先】 東京医科大学 医師・学生・研究者支援センター センター長 大久保 ゆかり
TEL: 03-3342-6111 FAX: 03-3342-9351 E-mail: ishi-s@tokyo-med.ac.jp
URL: <http://www.tmu-shien.com/>